

世界級キャリアのつくり方

黒川清（内閣特別顧問 科学担当）、
石倉洋子（日本学術会議 副会長）著



▽四六判・256頁

定価1575円

ISBN 4-492-15555-9

東洋経済新報社

03(3246)5467

国際派プロを志向するためには、まず自分自身の変革を

【評者】西岡 久寿樹（聖マリアンナ医大 難病治療研究センター長）

この度、「世界級」のキャリアを持つ黒川 清先生と石倉洋子先生の経験をもとにしたユニークな本が出版された。

本書では、ご両名の「国際派プロ」の定義や概念、日本ではなぜ国際派プロが育たないのかが詳述され、また国際派プロになるために何をなすべきかがきわめて具体的に述べられている。

例えば、国際派プロに求められ

も多い。われわれと同じような立場の者の中に、自分のメッセージとして、国境を越え、多くの聴衆の心に訴えるプレゼンテーションのできる者が日本にはもっと必要であるということは言うまでもない。

これまでグローバル化といえは欧米の尺度に合致させることにあり、ともすれば、いわゆる翻訳科学の世界に安住してきた日本の医学教育の指導者は、本書で述べられている国際派プロへの道を真剣に模索する必要がある。それは、多様な人たちとの「交じり合い」に対する極端な苦手意識からの脱却に始まる。

今からでも決して遅くはない。年齢に関係なく、国際派プロを志向するためには、まさに自分自身の変革から始めなければならない。本書による数多くのメッセージは、そのための強力な示唆を与えてくれる。

好む、好まざるにかかわらず、国内外より、「鎖国マインド」からの脱却を要求されている日本の医学・医療に関わるすべての方に一読をおすすめしたい。

るものは、多様な人との交わりやさまざまな縦横無尽の人間関係の中で揉まれることであるとする。

評者が外から日本人という集団を見るとき、その精神構造は、グローバル化された今でも歴史的「鎖国マインド」からなる「呪縛」から解き放されていないことを痛感する。また、日本の医学教育に携わる人々にはなんと「内向き」志向が多いのか、と呆れ返ること